

緑豊かでゆとりと潤いのある快適な環境と美しい景観の創造をめざして



日造協ニュース

2022.4月
通巻 第577号

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalca.or.jp>
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

- 本号の主な内容
- 2面 日造協50周年に寄せて “緑のスペシャリスト・緑地管理のセネラリスト”を目指して
(一社)日本造園建設業協会副会長 田丸 敬三
 - 3面 【学会の目・眼・芽】 造園の芽を増やそう
(公社)日本造園学会理事 滋賀県立大学環境科学部教授 村上 修一
第39回 全国都市緑化北海道フェアのご紹介
(一社)日本造園建設業協会 北海道支部長 四宮 繁
 - 4面 【ふるさと自慢】「ニセコ」4つのスキー場とアフタースキーの楽しみ
北海道支部 北嶋伸行(株園建)
【緑滴】新しい趣味
三重県支部 近藤 裕代(近藤緑化株)

お陰様で(一社)日本造園建設業協会は2021年11月に創立50周年を迎えました。記念行事は2022年の総会を中心に実施予定です。

第2回 通常理事会書面決議

事業計画・収支予算(案)など審議・承認

令和3年度第2回通常理事会は、新型コロナウイルス感染防止のため、書面決議にて3月30日付で行った。通常理事会では、4議案を審議、承認した。

第2回通常理事会は、第1号議案「令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)について」、第2号議案「諸規程の改正について」、第3号議案「会員の入会について」、第4号議案「事務局長の承認について」の4議案を審議・承認した。

令和4年度事業計画

I. 造園建設業を取り巻く状況と対応方向

(1) 造園建設業を取り巻く状況と課題
わが国においては、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の流行と新たな変異株の発生、さらには世界的な情勢不安等により、石油や建設資材等の価格の高騰が起こるなど、経済社会活動に多大な影響を受けているところである。このようななかで、デジタル化の進展による従来の働き方や生活行動様式の変化とともに、ポストコロナにおける環境や社会経済に関する持続可能性を目指した動きなどが加速化してきている。

造園建設業が携わる身近な公園などの緑のオープンスペースの重要性は、コロナ禍において広く国民に再認識されたところであり、造園建設業は、引き続き、今後の社会経済を支える生活基盤を創造する担い手として、人と自然が共生する緑豊かな社会の形成に貢献していくことが求められている。

一方で、わが国の喫緊の課題である人口減少、高齢化の進展による技術・技能者の高齢化や若年入職者の減少、新規入職者の離職により技術・技能の承継が困難になる等の課題は造園建設業にとっても構造的な問題であり、次世代に技術・技能を引き継げる労働環境の整備に向

け、着実に対応することが必要である。

(2) 諸課題への対応方向

造園建設業が、社会経済を支える生活基盤を創出する担い手としての役割を今後とも果していくためには、地域の維持、緑の創造・維持・再生、伝統的・文化的の継承など社会の要請に的確に応えるとともに、時代を先取りし、担い手の育成・確保、造園力の向上、造園の社会認知度の向上、造園力の発揮機会の拡大、受注環境の改善等に向けて、各種活動を展開していくことが必要である。

とりわけ、担い手の育成・確保に向けては、若年入職者をはじめ誰もが安心して健康に働くことができる環境の形成を目指し、建設業における働き方改革等を踏まえ、法定福利費の確保・社会保険等の加入促進、長時間労働の是正、週休2日の推進、安全衛生の徹底、女性活躍環境の構築、適正賃金の確保、生産性の向上、新規入職者の確保等に取り組み、雇用環境の改善を精力的に進める必要がある。

造園力の向上に向けては、少子・高齢化、高度情報化、生物多様性の主流化など経済社会の潮流の変化や、国土強靭化、地域創生、観光・スポーツ振興、グリーンインフラの推進、SDGsへの取組み等の政策動向を踏まえ、これまで蓄積した技術力を磨きをかけつつ、(2面に続く)

人事異動

【国土交通省都市局関係】(3月31日付)
都市再生機構都市再生部全国まちづくり支援室長 = 鹿野央(公園緑地・景観課緑地環境室長)
岐阜県都市建築部都市公園整備局長 = 舟久保敏(公園緑地・景観課公園緑地事業調整官)
熊本市都市建設局技監 = 秋山義典(公園緑地・景観課公園利用推進官)
都市再生機構東日本賃貸住宅本部東京東・千葉エリア再生部ストック再生計画課主査 = 望月祐大(公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐)
土浦市副市长 = 片山壯二(関東地方整備局国営昭和記念公園事務所長)
枚方市理事 = 笠間三生(朝霞市都市建設部長)

(4月1日付)

参事官(国際園芸博覧会担当) = 伊藤康行(近畿地方整備局建設部長)

公園緑地・景観課緑地環境室長 = 湯澤将憲(岐阜県都市建築部都市公園整備局長)
公園緑地・景観課公園利用推進官 = 曽根直幸(公園緑地・景観課長補佐)
参事官(国際園芸博覧会担当)付企画専門官 = 石川啓貴(公園緑地・景観課緑地環境室企画専門官)
参事官(国際園芸博覧会担当)付企画専門官 = 野村亘(関東地方整備局建設部公園調整官)
関東地方整備局建設部公園調整官 = 富所弘充(公園緑地・景観課企画専門官)
公園緑地・景観課企画専門官 = 佐々木貴弘(東北地方整備局東北国営公園事務所長)
公園緑地・景観課課長補佐 = 岩崎健(復興庁統括官付参事官付参事官補佐)
参事官(国際園芸博覧会担当)付課長補佐 = 児島茂(伊勢原市都市部国県事業推進担当部長)
まちづくり推進課専門調査官 = 下出大介(公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐)

まちづくり推進課専門調査官 = 下出大介(公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐)

樹林

(一社)日本造園建設業協会理事
古積造園土木(株) 代表取締役 古積 昇



グランピング事業を地域活性化の一助に

■事業再構築補助金が事業を加速

コロナ禍により「3密回避をイメージさせるグランピング施設」が人気化したことでメディアに取り上げられ、多くの事業者が関心を持ち、事業再構築補助金における新分野展開など、新規事業にグランピングを選ぶ中小企業が次々と出ており、2023年(令和5年)までには新たに200以上の開業が見込まれ、その事業規模は1,000億円に達しようとしています。

■施設の有効活用事例

廃校になった小学校をグランピング関連施設にリニューアルオープンした「Glamping & Port 結(ゆい)」(静岡県島田市)。芝生が一面に広がる校庭跡には、日本初登場となるオペラテントから人気のベルテント、ペットと一緒に宿泊でき、専用のドックランを備えたテントまで、21棟(5タイプ)が用意されています。

体育館やプールも利用でき、校舎の校長室を大浴場にするなど地元では話題の施設となっています。

■ユーザー目線の選択基準

これだけの施設ができ、どんな基準でユーザーはグランピング施設を決めるのでしょうか? アクセス、近くに温泉・観光地(遊べる場所)があるか、サイトからの景色、施設内容、料金等々どれを決め手にするかです。

昨年5月、那須塩原周辺にあるグランピング施設を下見し、翌月宿泊してきました。平日だったため、ほかの利用者が気になることはありませんでしたが、利用者同士のトラブルもあるようです。それなりに豪華な施設ではありますが、ユーザー目線で

作っているかです。

本来なら施設同士もある程度の距離があり、隣が気にならないくらいにあらるべきですが、狭い空間に詰め込まれたグランピング施設が多く、騒がしくてゆっくりできない・眠れない、など利用者からの苦情も出てきているようです。

また、テントから外を見たとき、景色どころか、隣のテントがまる見え、しかも他の利用者が目の前を通過するようではグランピングの魅力は半減するのではないかと思います。

■事業成功のカギと地域活性化

コロナ禍で、アウトドア選好が強まり初期投資を抑えて事業化できるグランピングを検討する事業者はさらに増えていると思います。

グランピング事業における造園の規模もそれなりにあると思いますが、まずはユーザー目線に立ち、良質な施設と自然環境をセットで整備することにより、一過性のブームではなくリバートの新しい形として定着するように、ワークショップ開催など社会的な活動も行いながら、望ましい形で根づけば、グランピング施設がある地域の活性化にもつながっていくと思います。

各地域の自治体が所有している既存の施設や遊休地を利用しての事業も可能だとは思いますが、「あ!ここでキャンプしたいな!」と純粋に思える場所を見つけられるかが、グランピング事業参入への判断材料になるような気がします。

(参考) グランピング協会: 市場規模試算、スノーピークが考える地方創生より

公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐 = 森井康裕(都市政策課都市環境政策室課長補佐)

公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室課長補佐 = 田中良輔(都市再生機構本社アセッタ戦略推進部地域づくり支援課主査)

関東地方整備局国営昭和記念公園事務所長 = 望月一彦(内閣府沖縄総合事務局開発建設部公園・まちづくり調整官)

内閣府沖縄総合事務局開発建設部公園・まちづくり調整官 = 大石智弘(国土技術政策総合研究所社会資本マネジメント研究センター緑化生態研究室長)

国土技術政策総合研究所社会資本マネジメント研究センター緑化生態研究室長 = 松本浩(環境省自然環境局国立公園課課長補佐)

市街地整備課企画専門官 = 峰寄悠(東北地方整備局建設部都市調整官)

東北地方整備局建設部都市調整官 = 能勢和彦(熊本市都市建設局技監)

復興庁統括官付参事官付参事官補佐 = 守谷修(スポーツ庁参事官(地域振興担当)付参事官補佐)

東北地方整備局東北国営公園事務所長 = 澤田大介(九州地方整備局建設部公園調整官)

九州地方整備局建設部公園調整官 = 齊藤和義(九州地方整備局国営海の中道海滨公園事務所副所長)

内閣府沖縄総合事務局開発建設部付 = 平塚勇司(九州地方整備局国営海の中道海滨公園事務所長)

九州地方整備局国営海の中道海滨公園事務所長 = 小島孝文(関東地方整備局国営常陸海滨公園事務所長)

関東地方整備局国営常陸海滨公園事務所長 = 高村幸夫(枚方市理事)

【本部事務局】(4月1日付)

事務局長(兼)総務部長 = 柄本徳満(総務部長)
(株)石勝エクステリア = 米光朋子(調査役)
総務部総務課(採用) = 大垣友紀子

(1面から続く)

I. 造園建設業を取り巻く状況と対応方向

(1面から続く) 中長期的な観点から、激甚化する自然災害からの復旧・復興支援活動の推進、公園緑地や道路緑地等の効率的な整備・管理運営への対応力強化、海外日本庭園の保全再生の支援など各種事業の企画立案、的確な実施に取り組み、造園建設業の明るい未来を切開く基盤の構築を進めていく必要がある。

また、2025年大阪・関西万博や横浜で開催される2027国際園芸博覧会や全国都市緑化フェアの開催支援、これらを通じた日本の四季の豊かさを活かした魅力ある環境整備等にも造園建設業界の英知と造園力を結集し、取り組んで行く必要がある。

(3) 令和4年度事業の実施方針

令和4年度の事業に当たっては、諸課題への対応方向を踏まえ、「第3次財

政・運営中期計画」(平成30年3月30日理事会承認)に沿って財政・事業・組織運営を図りつつ、以下の事項に重点を置いて取り組む。

- 担い手の育成・確保、働き方改革への対応
- 造園力の発揮機会の拡大
- 資格制度の実施と各種資格の取得の促進
- 建設キャリアアップシステムへの対応
- 安全衛生対策の推進
- 國際交流・協力の推進
- 大規模自然災害等からの復旧・復興支援
- 会員拡大プロジェクトの推進

また、当協会は、昭和46年11月に社団法人日本造園建設業協会として発足し、昨年に創立50周年を迎えたところであり、本部・総支部で、創立50周年記念事業を企画・実施する。

II. 令和4年度事業計画 (項目と内容の一部)

第1 主要な会務の実施

総会・理事会の決議等に基づき、財政基盤の強化、総支部・支部の役割分担の一層の徹底・連携等による効率的・効果的な事業・組織運営に取組む。

なお、各種委員会等の会議開催については、WEB会議の活用等も含め、新型コロナウイルスへの感染防止対策に留意し、実施する。

1. 総会

総会: 6月21日(火)14:00 ~

於: ホテルグランドアーク半蔵門

2. 理事会

通常理事会: 第1回5月27日(金)15:00 ~

於: 都市計画会館

3. 総支部長・支部長合同会議

4月26日(火)15:00 ~

第2 造園技術、造園資材、造園工事施工の合理化及び造園業の経営の改善に関する調査研究

1. 造園施工技術、造園工事の安全対策の検討
2. 植栽基盤技術、街路樹等の植栽育成管理技術、造園関連資材の品質基準等の検討
3. 会員の実態調査
4. 若年入職者等の確保策の検討
5. 日造協活動の戦略的展開に関する調査研究

第3 公園緑地、道路、河川、住宅、工場、学校等の緑化行政に対する協力

- 於: 熊本ホテルキャッスル
4. 会員拡大プロジェクトの推進

1. 公園緑地、学校等の緑化行政に対する協力

第4 造園技術に関する国際交流及び協力の促進

1. 国際園芸家協会(AIPH)の活動への参加
2. 造園関係の国際機関、団体との交流
3. 海外の日本庭園の保全再生等への支援・協力
4. 国内外の最新情報の収集・発信
5. 国際園芸博覧会開催への支援・協力
 - ・2022年アルメーレ国際園芸博覧会(オランダ)などA1国際園芸博覧会における日本国政府出展や催事への協力をを行う。
 - ・2027年横浜国際園芸博覧会(A1)の開催に向け、AIPHの現地調査への対応などAIPHの諸活動と連携しつつ、支援、協力をを行う。

第5 造園業に関する情報、資料の収集、提供

1. 技術・技能の向上、経営の改善等に向けた情報提供
2. 造園技術フォーラム等による技術情報の共有化
3. 安全衛生対策の推進
4. 行政情報等の提供
5. 会員名簿の発行

第6 関係行政庁その他関係機関への政策提言、建議、要望等

1. 要望・提言活動
2. 行政との意見交換会

第7 造園技術者及び技能者の養成、資格の認定並びに研究会、講習会等の開催

1. 技能五輪大会等への参加、協力
2. 第49回全国造園デザインコンクールの実施
3. 担い手の育成・確保の推進

ただきましたが、一番印象に残っているのは2013年に参加したアメリカ・ポートランドの日本庭園と低影響開発LID(Low Impact Development)の視察でした。

残念なことに参加者は私1人で、カナダで行われるAIPHの通常総会に出席される野村徹郎技術調査部長(現技術アドバイザー)と現地で合流という、語学が堪能ではない私は非常に不安で出発したのを思い出します。

現地では、現在も活躍されているポートランド日本庭園のチーフキュレーターの内山貞文さん、そして内山さんの奥様で、ポートランド市環境局で、永年グリーンインフラに携わっているDawn Uchiyamaさんにお会いして貴重な話を聞きすることができます。

偶然にも、現在も世界各地を飛び回り大活躍している花農造園の山田拓広さん(現国際委員長)と現地でお会いし、内山さんのお宅に招いていただき、お食事を御馳走になったのも貴重な経験でした。

このように日造協を通じさまざまな経験を積むことができましたが、この現在の状況で、海外調査どころか、国内での交流がままならない状況が続いている。

しかし、国内では3月19日に「全国都市緑化くまもとフェア」が無事開会し、多くの方が来場されています。

4. 資格認定事業

- ・建設キャリアアップシステムにおける造園技能者の能力評価実施団体として、能力評価等に関わる事務を(一社)日本造園組合連合会と行う。
- ・「(仮称)緑地樹木剪定士」資格認定期度の創設に向け、実施体制、内容など制度構築のための検討を進める。
- 5. 研修会等の開催
- 6. 会員のための福利厚生事業及び会員支援事業

第8 造園・環境緑化に関する普及啓発及び広報活動並びに機関紙、図書の刊行

1. 全国造園フェスティバル等の開催
2. 機関紙の発行等
3. 図書の刊行
4. メールニュースの配信

第9 その他本会の目的を達成するために必要な事業

1. 社会貢献活動への取り組み等
2. 造園・環境緑化産業振興会の活動
3. 表彰
4. 雇用改善事業等

第10 安心で安全な国土形成への支援活動事業

1. 防災協定の締結推進
 - ・自然災害発生時に造園建設業の特性を活かした災害復旧活動・復興支援活動の円滑な実施が図られるよう、国・地方公共団体等との防災協定の締結を推進する。
2. 大規模自然災害からの復旧・復興
 - ・東日本大震災など大規模自然災害に対応し、被災地域の要請に応え、各方面との連絡・調整を図りながら、被災地での緑豊かな環境の再生や津波防災緑地の整備等の諸事業の円滑な推進に取り組む。

その後も「全国都市緑化北海道フェア」が北海道・恵庭市を中心として6月25日から開催予定で、雪解けを待つての着工と短期決戦でこれからかなり忙しく大変とお聞きしました。

また、来年の4月から仙台市、2024年度には川崎市の開催が決定したそうです。

他にも2025年4月からは「2025年大阪・関西万博」が、そして2027年には「2027横浜国際園芸博覧会」の開催が決定しております。この文章の執筆時は東京のまん延防止等重点措置期間が解除されました、この状況が収束して皆様と真剣に討議して、その後ついでに美味しいお酒と肴を呑める日が来ることが待ち遠しいです。



最後に、この50年前に成家銀造日造協初代会長の強いリーダーシップのもと多くの方がご尽力されて私欲を捨てて創設していただいた日造協。これからも政・産・官・学界の諸先輩の方の引き継ぎのご指導を仰ぎながら、会員皆様が一致団結し、日造協の理念である「私たちは、『緑の景観・環境』創造事業をめざしています」を心に銘じ、「緑のスペシャリスト・緑地管理のゼネラリスト」を目指していきましょう。

さらなる協会発展のため、微力ながら私も務めて参りたいと思いますので、会員皆様の日造協へのご支援、ご協力引き続きよろしくお願ひいたします。



日造協50周年に寄せて

(一社)日本造園建設業協会副会長 田丸 敬三

“緑のスペシャリスト・緑地管理のゼネラリスト”を目指して



私が、日造協の活動に携わらせていただいたのは、2000年30歳の時で、本部の総務委員会が初めてでした。全国の名立たる方々がお見えの中、緊張して何もできなかったことを記憶しています。

その2年後から東京都支部に関わらせていただきましたが、いきなり当時西武造園の佐藤岳三さんが支部の技術委員長をされていらして、「君が私の下で技術副委員長をやりなさい」と言っていたので、いきなりの重責に委嘱。この2年前に街路樹剪定士の資格試験が始まり、確かに第3回の資格試験からだったと思いますが、この資格の創設の立役者の一人の吉村造園の吉村金男さんがリーダーで現地で陣頭指揮をとられ、當時非常に勉強になったのを思い出しました(私は下で清掃と歩行者の誘導そして受験生のお弁当配りをしていました)。

2007年に本部が千代田区麹町から現在の文京区本郷に移転ましたが、ほとんどの方が土地勘がないものですから、当時私も総務委員会の広報部会(現広報活動部会)にも所属させていただいたので、毎月1回本部で会議があつたのですが、会議終了後、当時部会長の内山緑地建設の平井善樹さんを筆頭に、西武造園の有賀光昭さん、そして若手の内山緑地建設の内山剛敏さん、富士植木の成家岳さん、藤造園建設の藤巻慎司さんらと委員会等の懇親会で使ふようなお店を一軒一軒開拓していました。今でもその数件のお店は仲良くさせていただいている。



また、私の日造協の活動での楽しみは、会議や研修会や視察などでのいろいろな方との交流です。毎年開催される都市緑化フェアの視察や、「花と緑のつどい」では多くの地域の方に大変お世話になりました。地元の特産物などを紹介いただき見聞を広めることができました。

また、海外調査も数回行く機会をい

その後も本部、支部のさまざまな委員会・部会等に携わらせていただく機会を与えていただいたことは今となっては貴重な財産です。



その後も本部、支部のさまざまな委員会・部会等に携わらせていただく機会を与えていただいたことは今となっては貴重な財産です。

学会の目・眼・芽 第123回

造園の芽を増やそう

(公社)日本造園学会理事

造園という専門職能に対する社会の認知や関心を高める必要性は、造園に関わる方々の間で共有されていると思います。かくいう私も、建築を学びに来た大学生に対して、造園の面白さや社会的意義を知ってもらおうと日々勤しんでいます。

これは国内に限ったことではなく、ランドスケープ・アーキテクト発祥の地アメリカでも同様です。ただ、ここで紹介するのは、大学生に対してではなくもっと若い世代に対する取り組みです。



アメリカの造園設計事務所ランドデザインは、トレーディングカードを作

滋賀県立大学環境科学部教授 村上 修一
りました。ただし、そこにはプロ野球選手やアニメキャラクターではなく、同社に勤務する造園や土木の技術者たちの名前や顔写真、関わった代表的プロジェクト、簡単なQ&Aが載っているそうです。

同社は地域の非営利団体と共に、子どもたちが造園を楽しく学べるワークショップを行っており、そのためのツールキットを開発しています。その一つがこのトレーディングカードというわけです。

ツールキットには色鉛筆、サインペン、スケール、テンプレートといった道具と、平面図を読む、ダイアグラムを描く、配水管の模型を作る、といっ

た課題が含まれているそうです。

◆
さらに、米国造園家協会(ASLA)は、「Dream Big with Design: A Showcase of Landscape Architecture and Pre-K-12 Design Learning」というタイトルで、小中学生が造園を学べる2日間のワークショップをオンラインで行ったとのことです。

ASLAのホームページには、ワークショップの詳しい内容が掲載されていますが、例えばディズニーランドやレゴランドのデザインを担当した技術者たちが作品を紹介することで、子どもたちの想像をかき立てるとともに、将来就く仕事としての関心をも呼び起こすことを狙ったようです。

◆
こういった取り組みには、マイノリティを含む全ての子どもたちに学びの

機会を提供するという、社会的公平性のための対応という側面もあり、国内とは少し事情が異なるかもしれません。しかし、ほとんどの学生が大学に入るまで造園のことを知らないという状況は、アメリカと同じではないかと思うのです。

もし、造園の面白さや社会的意義を知っている子どもたちが増えれば、例えば大人になって家を建てる際にもっとお庭にこだわってくれるようになるなど、造園の仕事が増えるかもしれません。

造園の芽をもっと増やしませんか?



参考: Kim O'Connell著『Trading Faces』(Landscape Architecture Magazine誌 2021年6月号), Zach Mortice著『Imagine That』(Landscape Architecture Magazine誌 2021年8月号)

花と緑～恵みの庭を人がつながる北の大地から

第39回 全国都市緑化北海道フェアのご紹介

「全国都市緑化フェア」は、国民一人ひとりが緑の大切さを認識し、緑がもたらす豊かで快適な暮らしがあるまちづくりを進めるため、毎年、全国各地で開催されている国内最大級の花と緑の祭典イベントです。今年度は、北海道恵庭市をメイン会場に開催します。北海道では、1986年に札幌市の百合が原公園を主催会場に「さっぽろ花と緑の博覧会」以来、36年ぶりの北海道として2回目の開催となります。

第39回全国都市緑化北海道フェア「ガーデンフェスタ北海道2022」の開催テーマは、「花と緑～恵みの庭を人がつながる北の大地から」です。

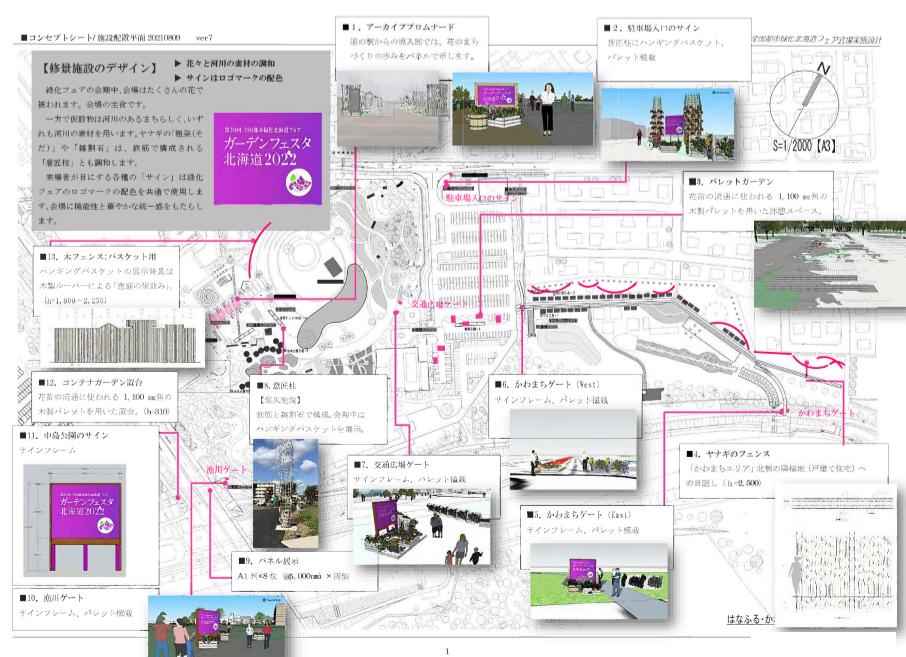
6月25日から7月24日まで恵庭市のほか全道各地の協賛会場で開催します。全国都市緑化フェアは、人口7万人規模の都市での開催は、今までほとんどありません。

市民の主体的な「花と緑」の活動が盛んに行われ、「ガーデニングのまち」として知られている恵庭市。そんな花のまち「えにわ」を舞台とし、開催されるガーデンフェスタ北海道2022では、サポートアーバーズクラブという、市民が企画段階から関わり主体性をもち活動する、これまでの緑化フェアにはなかった取り組みがあり、市民の皆さんも幅広く活躍しています。美しい花であるガーデンや街並み、それぞれの会場で、花のまち「えにわ」が一体となって来場者をおもてな

しいいたします。

基本方針

- ①北海道ならではの花とガーデンの魅力で人々を感動させるフェア
- ・北海道の自然と人々により、育まれた貴重で特有な資源を有効に活用します
- ・最高の季節に、彩りあふれるガーデンや、まちなかをつなぐ会場で来場者をおもてなしします
- ②希望と活力あふれる「花のまちづくり」を次の世代に継承するフェア
- ・これまで培われてきた、人のつながり・幸せを感じるまちづくりを、若い世代に引き継ぎます
- ・将来を担う子どもたちに、花と緑を慈しみ、郷土への愛を育む機会を創出します
- ③日々の暮らしの潤い、地域の絆、豊かな地域社会につながるフェア
- ・花のまちづくりの先にある、ライフクリエイティの向上、思いやりのある地域づくりを目指します
- ・地域のシンボルとなる拠点を活かし、観光・都市間交流・地域経済の発展を見据えて取り組みを進めます
- ④花と緑の取り組みの歴史と経緯を踏まえ、多様な主体が効果的に連携するフェア
- ・既存の施設やイベントを最大限有効活用します



(一社)日本造園建設業協会 北海道支部長 四宮 繁



2022.6.25
恵庭の街が咲き誇る。



カードの配布やスタンプラリーなど、連携してフェアを盛り上げます。

スポット会場(18か所)

駅前、学校、道路、公共施設等で花壇、プランター、道路の植樹などにより、緑化フェアに合わせた取り組みを行います。

まちなか会場

JR恵み野駅からメイン会場周辺のストリートガーデン等があり、同駅からメイン会場に徒歩で向かう時、商店街のガーデンテーブル、個人宅のオープンガーデンも楽しんでもらえます。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大により生活様式が大きく変わり、予定していた多くのイベントが延期や中止を余儀なくされていますが、感染の収束を願いながら、対策もしっかりと行っていく計画です。

また、開催時期は、北海道の気候はよく、花や緑は見頃な時期です。日造協北海道総支部や会員の企業は、庭園出展コンテストに参加し、全国デザインコンテスト庭園のお手伝い、実行委員会の参加などをしております。

また、総支部、支部で会場見学、その他ご要望がございましたら、対応したいと思いますので、皆様のお越しをお待ちしております。

基本方針を踏まえて

メイン会場は、花のまち恵庭の観光拠点として、2020年11月にオープンした花の拠点「はなふる」。これまでの恵庭の「花の文化」「市民の文化」の魅力が集約された新しい観光スポットを舞台に、北海道の花と緑の文化を広く全国に発信します。また、休憩エリアと、にぎわいの園路ほか、ガーデンエリアがあり楽しめると思います。

展示・出展

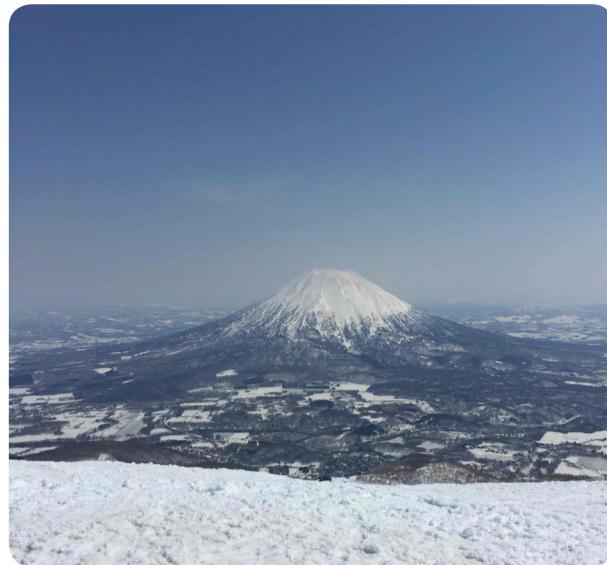
- ・造園技術を競う企業等の出展庭園コンテスト
- ・「幸せの花飾り」をテーマに市民が参加するハンギングバスケット・コンテナガーデンコンテスト作品の展示
- ・高校生を対象とした造園デザインの展示
- ・市民団体などのステージイベント
- ・恵庭市、北海道、地元企業によるPR企画
- ・北海道フェアらしいキッチンカーの出店や花苗販売
- ・サポートアーバーズクラブによる「はなふるツアーガイド」や「オリジナルクラフトビールの製造」など各種企画

協賛会場(32か所)

一定程度の面積を有する道内の庭園、公園緑地、国営・道立の都市公園等です。メイン会場とともにガーデンフェスタ

ふる
さと
自慢
北海道

「ニセコ」4つのスキー場とアフタースキーの楽しみ



今年は北京オリンピックが開催されウインターポーツが例年よりも盛り上がりましたが、ここ、北海道は一年の約半分が銀世界。

このような恵まれた? (今年は大雪で札幌市内は交通障害も起きましたが…) 環境でウイン

タースポーツを楽しむなんて勿体ないです!

◆ そんな北海道でスキーと言えば、やはり「ニセコ」でしょうか(あまり知られていないどころか知られていますね…)。

「ニセコ」は北西の季節風に乗り、



長年、私の趣味は読書でした。好きな文学作品に出会うと時間が経つのも忘れ、本の世界にのめり込んでいたものです。しかしながら、結婚・出産といった環境の変化により、読書に耽る時間は日々少なくなっていました。読書を趣味ということに疑問を抱くまでになっていました。

◆ そんな時、出会ったのが手芸の世界でした。きっかけとなったのは息子の入園準備制作でした。それまで小さい穴や破れの修繕をする程度だった私には、初めて足を運んだ手芸店で目にした山ほどの糸や布地、そして可愛らしい装飾品たちはキラキラ輝いて見えた。

◆ いざ作り始めてみると少々苦戦しましたが、無事に完成了時、想像以上に樂しみながら作っていた自分に驚きました。もっと他にも作ってみたいなと思った時には、私の足は再び手芸店へ向かっていました。

◆ まずは初心者向けキットで気になっていた羊毛フェルトに挑戦しました。無心で作り上げ、下手ながらも可愛らしい作品ができ、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。次は刺し子の

◆ ブローチに挑戦しようと手芸店を訪れたところ、息子がコースターセットの柄を大変気に入り、こちらにも挑戦することに。チクチク刺しながら図柄が出来上がってくると達成感に溢れ、その一方ですぐに手を止めることができるので今の私にぴったりな気がしました。完成したコースターを見た息子が大喜びしてくれたのも本当に嬉しかったです。

◆ 他にもつまみ細工やあみぐるみにも挑戦する予定で、私なりのハンドメイドライフをさらに充実させていきたいと思っています。

◆ 日本海で発達した雪雲が羊蹄・ニセコ連峰にぶつかり、大量に降り積もった雪は、軽すぎない踏み応えのある雪質で、それがウインターポーツ愛好家にとってサイコーなのです!

◆ そのサイコーな雪を求めて、国内はもとより、海外から多くのスキーヤー、スノーボーダーが訪れます。

ニセコアンヌプリには、向かって左から「アンヌプリ」「ビレッジ」「ヒラフ」「HANAZONO」と4つのスキー場があり、とても1日では回り切れない規模で、晴れた日はゲレンデから羊蹄山の勇壮な山容が臨め、素晴らしい景色の中滑走できます。

また、ニセコ周辺にはバックカントリーを楽しめる山がいくつもあり、もちろんあの「羊蹄山」だって登ることができます(バックカントリーは危険が伴います。初心者の方はガイドツアーがお勧めです)。

事務局の動き

【4月】

- 5(火)・広報活動部会
- 12(火)・植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)
- 14(木)・2022年アルメーレ国際園芸博覧会開会式
- 15(金)・街路樹剪定ハンドブック編集委員会
- 19(火)・植栽基盤診断士認定委員会
- 20(水)・街路樹剪定ハンドブック編集委員会
- 21(木)・CCUS評価制度懇談会
- 25(月)・造園技術フォーラム
- 26(火)・運営会議
 - ・総支部長・支部長合同会議
 - ・花と緑のつどい
- 27(水)・全国都市緑化くまもとフェア会場視察

【5月】

- 10(火)・広報活動部会
- 13(金)・街路樹剪定士認定委員会(試験部会)
- 17(火)・総務委員会・財政・運営部会合同会議
- 19(木)・2027年国際園芸博覧会協会・第2、3回社員総会・第3回理事会
- ・運営会議
- 21(土)・第33回全国「みどりの愛護」のつどい
- 24(火)・令和3年度事業監事監査
- 26(木)・造園フェスティバル推進部会
- 27(金)・総支部長等会議
 - ・第1回通常理事会
 - ・役員懇談会

委員会等の活動

●広報活動部会【web】

3/1 日造協ニュース3月号の紙面内容、4~7月号の内容について審議

●女性活躍推進部会【web】

3/3 令和3年度活動報告と令和4年度活動計

編集後記 さまざまな花が咲き、若葉が眩しい季節となっていました。それだけで心がウキウキしてきます。本年度も日造協ニュースをよろしくお願いします。

◆ ニセコはアフタースキーもかなり充実している、近隣にはさまざま

な泉質の温泉が十数ヶ所もあり、お気に入りの温泉を見つけるのも楽しみの一つです。

もちろん、食に関しても地元産の野菜を含め海産物、ジンギスカン等バラエティ豊か。2030年頃には新幹線も開通予定で、ますます訪れるやすくなるでしょう。

最後にあまり知らないニセコの楽しみ方ですが、厳冬期のパウダースノーも良いのですが、春の人けの少なくなったゲレンデの「コーンスノー」を滑走するのがまた楽しいのです。

北嶋 伸行(北海道支部(株園建))

画について審議

- 第47回全国造園デザインコンクール「みどりのプラン」賞作品施工完了
 - 3/4 受賞作品を熊本県支部の協力のもと緑化フェア会場内に展示
- AIPH2022春会議の博覧会委員会
 - 3/7 2027年国際園芸博覧会の開催に向けた進捗報告を実施
- 植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)
 - 3/7 植栽基盤診断士補研修会(修了試験)問題及び「植栽基盤診断士補ビデオ教材」の改訂について審議
- 街路樹剪定土認定委員会(試験部会)【会議室&web】
 - 3/9 2021年度街路樹剪定土認定試験(2月開催)の採点や実施結果等について審議
- 戦略立案部会【会議室&web】
 - 3/11 日造協創立50周年記念事業及びその事業に係る造園建設業PR動画の制作等について審議
- グローバル時代の「日本庭園」を考えるシンポジウム
 - 3/12 「欧州における日本庭園修復(カラスト、ウェールズ、ウィーン等)」について山田委員長が発表
- グリーンインフラ官民連携PF第3回シンポジウム
 - 3/14-15
- くまもとフェア 庭園出展コンテスト審査会
 - 3/15 企業・団体等および高校生による庭園計32作品について審査
- 財政・運営部会【会議室&web】
 - 3/16 令和4年度事業計画(案)・収支予算(案)、令和3年度収支決算見込(本部)、諸規程の改正について審議
- 街路樹剪定土認定委員会【会議室&web】
 - 3/17 2021年度街路樹剪定土認定試験2月開催分までの合否判定や実施結果等について審議
- 資格制度委員会(新規制度等部会)【会議室&web】
 - 3/23 新資格設立のスケジュール詳細、特例講習の開催、研修内容について審議

新
し
い
趣
味

近藤
緑化
裕代
三重県
支
部
(株)



SavEモードでバッテリー長持ち

雨の日も作業OK

正逆回転機能つき

ZENOAH[®]
人と共に 緑と共に

10" チップソー+ナイロンカッタ付き ゼノアバッテリー刈払機

ループハンドル BTR250PL
希望小売価格 52,250円(税込)^{※1} 質量^{※2}: 2.9kg

ゼノアLi-ionバッテリー BLi200ZR
希望小売価格 27,280円(税込)^{※1} 質量: 1.3kg

両手ハンドル BBC250PW
希望小売価格 52,250円(税込)^{※1} 質量^{※2}: 3.4kg

ゼノア急速充電器 QC330ZR
希望小売価格 17,820円(税込)

※1 バッテリー・充電器は別売りです。
※2 アクセサリを除いた質量です。

ハスクバーナHP www.husqvarna.com/jp/
ゼノアHP www.zenoah.com/jp/
✉ info.hv@husqvarna.jp

ゼノア WEBサイトは[こちら](http://zenoah.jp)